

雇用確保の方針は

方向性を統一

わかりやすく示す／町長



しもむら かつゆき 議員
下村 勝幸

シミュレーションを早期に作り直す気はないか。

答

大西町長

植田副町長

① 雇用の確保について、ま

ず農業分野で一定の確保をしたい。特に新規就農者の研修事業や、レンタルハウス整備事業などをうまく組み合わせ

た黒潮町独自のモデルができないか、企画立案をしている段階である。その政策協議が

間に合えば、来年当初の予算に組み込みたい。また、現在

取り組んでいる、年間2名の新規就農者事業では、今後年間4〜5名の新規就農を見込

みたい。また、介護ニーズが非常に高いという現状も踏ま

え、平成23年度当初には通所介護、もしくは訪問介護の

拡充を考えている。例えばシーサイドレベルのデイサービス

情報の一元化を行い、単発ではない体験型観光メニュー、あるいはミニツアアのプログラムの策定を進めている。今後、充実したメニューを考え、今年度中に、このプログラム策定は終了する予定。

黒潮町発展のためにも各部署の方向性を統一し、住民にわかりやすいランドデザインを示していきたい。

② 業務ポリシーと人員のバランスが取れていないのが現状であると認識をしている。産業振興待ったなしという現状を踏まえ、少なくとも23年度当初には、人員と室の方向性、また業務ポリシーと人員の適正化をお約束したい。更に、今、室が取り組んでいるさまざまな事業についての年次計画や細部にわたる計画、民間でいえば精度の高い経営計画を作成するように指示をしている。

③ 財政シミュレーションをプラスのサイクルでということだが、これは、単なる事業投下ではなく、産業振興への

資本投下をすべきとの指摘である。これについては全く同様の考えであり、今後10年20年において福祉や教育を担保していくためには、どうしても今の段階で産業振興に取り組まなければならないと考えている。今後は、日々の業務、あるいは財政シミュレーション上において歳入増を目指していきたい。これは、おれない姿勢であり、これまでも同様であると思う。

問

① 多くの町民の願いは町内での雇用確保である。これにどう取り組むつもりか。雇用のための成功方程式をさせ。

成功している市町村は、だれもが理解できるビジョンや目標を明確にしている。今後町が推進する雇用確保の規模やその時期、また数値目標はどの程度を見込んでいるのか。

また、町民にわかりやすく、黒潮町発展のランドデザイン(全体構想)を視覚化する考えはないのか。

② 現在の産業推進室は当初計画した機構として全く機能していない。失礼だが、産業と名の付くものを全て集めただけの大変雑多で意味のない組織になってしまっている。これを本来あるべき姿への大改革を行う考えはないのか。またその時期は。

③ 第3次の財政シミュレーション上では、平成24年から決算上の形式収支は赤字となり、平成29年には、財政調整基金が底を尽く。また、特目基金も、約2億円レベルで毎年減っていく。黒潮町は、歳入の地方税部分で収入を増やしていける余地があると思っている。町長の政策によって、今後このシミュレーションを大きく作り変えられる可能性があると思う。投資的な経費を投入しながら、歳入が増加に転じるような第4次の



企業して2年目 どくだみ農園の工場内